

# 千年持続学校

調査団体名	: 千年持続学校	団体代表者名	: 高野雅夫
設立年	: 2011年	対応してくれた人の名前	: 高野雅夫
団体URL	: <a href="http://sustaina1000.cocolog-nifty.com/blog/">http://sustaina1000.cocolog-nifty.com/blog/</a>	調査員	: 太田 司、丹羽健司
活動拠点	: 愛知県豊田市旭地区	レポート作成者	: 太田 司
取材日	: 2014年2月15日		

## 活動内容

田舎への移住には4つのカベがあると考えている。①住むところがない②生業がない③医療機関がない④高校、大学などの高等教育機関がない。これらのカベに取り組み、若い人の移住を応援しようと、生まれたのが千年持続学校。まずは①、空き家探しは借り手と貸し手のイメージがなかなか折り合わない。それならいっそ造ってしまおうとなった。受講料5万円×30名＝150万円が建築資金（現代版の＜講＞）。受講生は自然エネルギーや大工技術を学びながら力を出し合い、家をつくる（現代版の＜結＞）。完成予定の家の住み手は、地元の方々話し合いの上、移住を希望する受講生の中から決定した。

## キャッチフレーズ

自然(じねん)なマネージメント

## 会のモットー(何を大切にしているか)

さまざまな人が集まり学び合うことから、地元の人、その子ども、I・Uターン者、都市の人、それぞれの学びたいことや、生活に密着した衣、食、住に関わることを専門的に学べる場となってゆくことを目指している。田舎暮らしを目指す人たちに、家をつくるという行為を通じて、田舎暮らしにはどうしても必要な、助け合い、共に生きる 現代版「結いと講」の生活術と心を伝えていきたい。

## 設立から現在に至るまで変化したこと

2011年9月に開講してから毎月最終土日に講座を行い、その他に自主作業も行っている。つぶれた小屋の撤去作業から始まり、近くの山で木材を伐り出し、伝統軸組み工法の大工仕事で木材を加工して、2013年6月30日に上棟式を行った。この間に、待ちきれず受講生の中から4家族10人が旭・足助地区へ移住した。30歳代を中心に20歳代も多く、意外と50～60歳代は少ない。河合棟梁の伝統工法を伝えたい思いと本物を学びたいという受講生の意欲が反応し、技術は非常に向上したものの、計画の2倍近い時間がかかっている。一方、定例会や自主開催ワークショップには子どもたちも集まり、家づくりに励む大人の姿を見ながら子どもたちが勝手に遊ぶ、懐かしく微笑ましい光景が出現している。設立当初は専従事務局を置いたが、半年過ぎから定例開催日にホームルームとして全員で協議して運営する方式に変更した。

## 連携している団体・専門家・自治体など

とよた都市農山村交流ネットワーク、おいでん・さんそんセンター、足助きこり塾

## 山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

山を見、木を伐り、製材することから、地元と協調しての上棟式や、耕作放棄地の活用や、農産加工に至るまで、モノとワザと文化での地域の宝物探しが始まっている。また、家づくりだけでなく、藤村氏を迎えての3万円小仕事ワークショップや心と体のワークショップが催されたり、移住も実際に進行している。

## 現在直面している課題

家づくりは、設計士の市川さん、伝統工法伝承にこだわる地元の棟梁・河合さんの強力な無償ボランティア講師を得て可能になった。その分、講師・受講生とも求めるレベルやこだわりも高くなる。必然的に時間も費用も計画以上にかかることになり、工期も費用も倍以上かかることになった。どの辺で折り合いをつけるかが難しいが、それがまた楽しくもある。

## 今後やってみたいこと

地元と協働しての、土地探し、地域融和、仲間・資金集め（結と講）、職人探し、家づくりからエネルギー自給までの標準マニュアル的なものをつくって提供したい。3事例ぐらい経験すれば、どこでもできるよう標準化できるのではないか。素人でもできることとプロに頼まなければできないことを見極めて、心地よくシェアしていけたらいい。そこは地元のプロの出番ができるし、学びの場にもなる。

## そのためにはどんな情報・人脈が必要か

地域の人材データベース、集落の作法集

## チームオリジナルの質問

<質問内容> 地元との関係づくりで配慮したことは？

<答え>

導入に当たっては、地元のキーパーソンがきめ細やかに動いてくれた。少し距離を置いて見られていたが、学校としてはあえて何もしなかった。入居予定者が隣近所に関わっていくことに寄り添うことを優先した。上棟式では集落の人たちも集まってくれてお祭りのようになった。むらに子どもらの声が聞こえることが大きい。

## チームオリジナルの質問

<質問内容> やってみて一番驚いたことは？

<答え>

受講生たちが何組か待ちきれずに、本格移住や仮移住など始めたこと。その過程で互いに助け合う仕組みや作法を自然に学び、つくっていったこと。

## その他、伝えたいこと

定例会には100人の集落に子どもも合わせると50人くらい集まる。地域と世代をつなぐ村がこうしてできていくのかもしれない。広がりも深まりも運営も自然（じねん）に進んでいく。

## 写真



上左:上棟式 下左:腰板打ち 下中:親子で木酢液塗り 下右:近くの寺でぬかど炊飯 上右:竹小舞

